

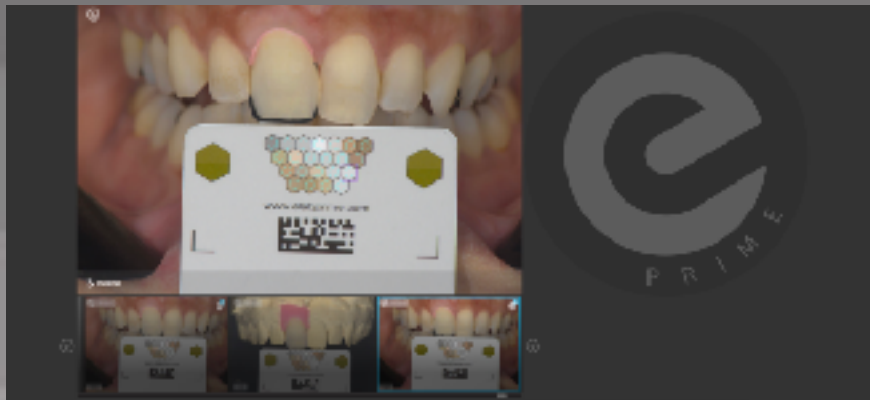
第二章

「感覚」ではなく「数値」で迫る色調再現

『eLAB prime』を使用したLive patient course

今回は作ったクラウンを実際の口腔内にトライします！！

※歯科医師立ち会いのもとで行います



近年、歯科技工業界も急速にデジタル化が進み、最近ではArtificial Intelligence（AI）を活用した色調再現アプリも話題になってきている。その中でも筆者が使用しているeLAB ProtocolはSascha Hein氏（Emulation S, Hein）が開発した画期的なデジタルシェードマッチングツールであり、最大の利点はデジタル上で試適が可能な点である。

今回使用するeLAB PrimeというアプリはAIが画像処理からベース色のミクシングレシピまで教えてくれる非常に優れたアプリである。よって術者はキャラクタライズや表面性状に注力出来る。

今回ハンズオン受講生は実際eLAB primeのアプリを使用してクラウンを製作し、かつ患者さんの口腔内に試適をしてもらう。

講師

渡部 正己 先生

2004年 名古屋歯科医療専門学校卒業

2005年 大阪大学歯学部附属病院歯科技工研修修了

2005年 三晶デンタル技工勤務

2011年 大阪セラミックトレーニングセンター週末コース修了

2013年 Smile By Yugo勤務（オーストラリア）

2015年 Master Dental Services Dental Laboratory勤務（オーストラリア）

2021年 グローバルネクスト株式会社開業（日本）



あなたはまだ感覚で色合わせしていますか？

『シェードは数字で合わす時代』です！！

セミナー内容

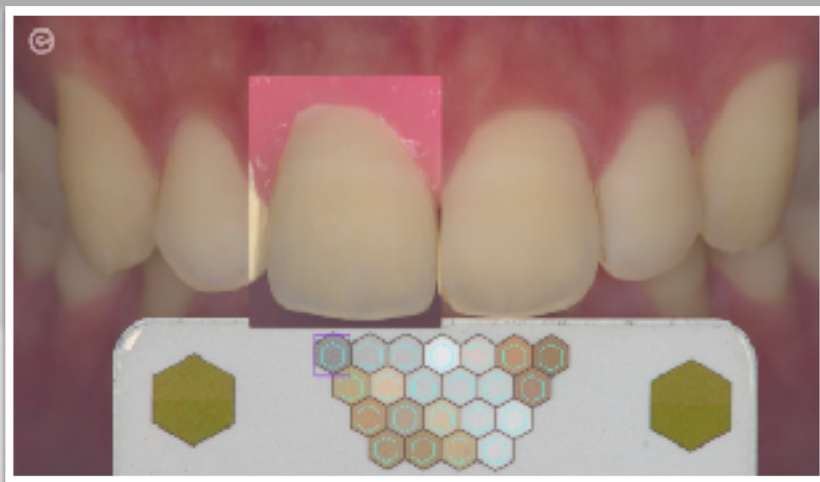
Day 1: Evening lecture

- ・そもそもeLABとは何か？
- ・カメラの設定方法とシェードテイクの仕方
- ・eLABシェードテイクのデモ
- ・eLABシェードテイクの実技

Days 2 & 3: Hands-on course

- ・eLAB primeを用いた色調再現法
- ・中切歯単冠の作製
- ・Digital Try-in
- ・Real Try-in（歯科医師の立ち会いのもとで行います）

ハンズオンにて患者さん（某著名歯科衛生士）
の11を作製して頂きます



推奨カメラ

基本的にNikon か Cannonの最新モデルでなければ問題ありません。

※お使いのカメラが使用可能か気になる方はお問い合わせください。

開催日時 2025/4/11 (金) ・ 12 (土) ・ 13 (日)

(Fri) 16:00~18:00 (Sat) 9:00~18:00 (Sun) 9:00~15:00

金曜日にeLABのレクチャー、土日にハンズオン

※金曜日と土曜日夜に懇親会を予定しております

定員数

Hands-on course 12名

定員になり次第締め切らせて頂きます

受講費

110,000円

Hands-on courseは上記金額に材料費、昼食代、消費税が含まれています

土曜夜に懇親会を予定しております（実費）

決済後のキャンセルは各種手数料を引いた額を返金いたしますのでご了承ください

持参物

使い慣れたインスルメントや築盛道具、各種バー

ジルコニアフレーム・模型・陶材はこちらでご用意します

お使いの一眼レフカメラとMacbook

当日ポラーアイズと専用グレーカードは貸し出します（購入も可）



polar_eyes



WHITE_BALANCE
GREY REFERENCE CARD

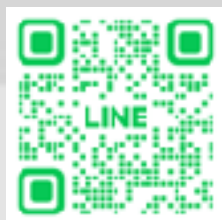
会場・お問合せ

Amorphous事務局

大阪府大阪市中央区本町2-3-4 アソルティ本町7階 LAZARUS内

※お問い合わせは下記LINEにてお願いいたします

申込方法



セミナー専用公式LINEにご登録ください

LINEにて参加申し込みフォーム・お支払い方法を送信します

公式LINE登録は左のQRコード読み取り (ID :@784yukka)

supported by



Forest-one



バカ社長の独り言

前歯の色調再現は、歯科技工士にとって最もストレスのかかる仕事と言っても過言ではない。

自分自身、プレーヤーとして完璧に満足のいく前歯部色調再現は何度経験できただろうか・・・恥ずかしながら一度もないかもしれない。そのくらい色調再現は難しいと感じる。

今現在、筆者はそれなりに人数のいる自費ラボのオーナーとして仕事をしているが、「色調再現のクオリティを高い水準で安定させる」というのは大きな課題である。どうしても人によってその安定感は変わってしまうのが大きな悩みなのである。

そんな時に渡部氏の勧めるeLABシステムの概要を聞き「これで感覚に頼らない色調再現が可能になる！」と、大きな光を感じた。

今回お伝えするeLABのソフトを使えば、ソフト内で陶材のレシピまで教えてくれるので、少なくとも「大外し」という悲劇からは回避できるのではないかと思う。

第一章にて私も実際にシングルセントラルを作製したが、今までのように「目」で色を追いかけていくのではなく、「数値」で追いかけていく感覚は衝撃であった。

そして完成したクラウンと目標歯を半分ずつ重ね合わせた時、完璧にシェードが合っていた事実には心底驚いた次第である。

歯科技工士の中には少なからず色盲の人がいて、その人達は「自分には色合わせの仕事は出来ない」と諦めている人もいると思うが、このシステムを使えばそんな「諦めという名の傘」を投げ捨てる事ができるだろう。

渡部氏は「シングルセントラルの色が合ったとしても特に感動はない」と言う。理由を聞くと「eLABシステムを使えばどうせ色なんて合ってしまうから」と答える。

我々歯科技工士の仕事は多岐に渡るが、色調再現のストレスから少しでも解放されるのは我々にとって大きな福音ではないだろうか？

今回は支台歯形成された患者役の方にお越し頂き、実際に口腔内に各自作製したクラウンをトライして頂く。そう、渡部氏の言う「色なんてどうせ合ってしまう」という言葉がその場で答え合わせできるのである。

果たしてこんなゴキゲンなセミナーがあるだろうか・・・？？

あります！！！！　　ここです！！！！！！

さあ、共に「色の迷路」から抜け出しましょう！！！！

シドニーにてオペラハウスを望みながら

LAZARUS/Amorphous 代表 村田彰弘Ⓐ